

[基調報告]

ボランティア活動の 今 と 気づき

～東日本大震災を踏まえて～

福岡教育大学教授 井上 豊久氏

今日参加されている方の名簿を拝見致しましたら、学生さん、ボランティア、それぞれの団体で中心的な役割を担っている方、施設関係に関わっている行政の方が多いと思いますので、ボランティアの基本的なところと最先端と云いましょうか、そのあたりをお話したいと思います。

私は先ほどご紹介ありましたように学校の福祉社会教育コースで、学生と合宿を組んでボランティア活動に関わっておりますので、皆さんとご一緒に考えていきたいと思います。東北のことについては、後ほど改めてお話しますが、今、少しばかりご紹介しましょう。

2月には大人の方80数人に、9月には主に子供を対象に聞き取り調査をしました。ある子供は3歳の時に父母が離婚、この度は幼稚園でお母さんが流されてしまい、今は、おばあちゃんに育てられていると云う話を直接聞きました。また山証と云う水産加工場会社の方は、流されていく目の前の父を見ながら、自分はたまたま流れてきたロープで助かったそうです。今、息子さんが何とか復興させているのですが、まだ3分の1ぐらいかな、と云う話しでした。そういう事を直接、私と学生と一緒に聞き取り調査等をして来ました。

復興会議と云うのがありますが、毎月喧嘩のような感じなのです。何故かというと全部家が流されてしまった人と、家が残った人とでは裏表、裏というのはどこかで妬みがありますよね。それぞれ被災の状況が違うのでごく喧々諤々です。「そのようなことでは遅い」、「いや2～3年後にもっときちんとしたまちづくりをしましょう」と、バラバラなのです。何処も移転の場所は決まってもなかなか進まないのが実状です。

それから先ほど“アンケート調査から見えてきたもの”という報告が田中さんからありましたが、現実にはいろいろな課題もあり、少し私の方で追加させていただければと思います。

私はご紹介いただいたように「宗像市民フォーラム」というものもやっています。これは、市民団体の支援を目的としており、先ほど出ていた資金の問題や他にもいろいろあります。

宗像市「メイトム」という市民活動交流センターに於いて活動していますが、ここでは、5人が正式な職員で、あとの5人は「宗像市民フォーラム」というボランティア団体に属しそこで一応給料に当たる時給を貰いながら、全体の支援活動を14年ぐらい続けておられます。そこで先ほど出ていた情報提供、繋ぎ役と云うようなことをやっておられます。行政の方も今日、参加されていますが、ボランティアが関わるとちょっと違う形、やっぱり自分が当事者というところもあるので、少し身近に親身に対応できるというところがあるのかも知れません。

それから「文部省言語力向上委員会」にも属しております。

西藤さん（本日の司会者）も太刀洗で読み聞かせをされているそうですが、本当に子供にとっても大人にも読み聞かせは素晴らしいものです。私も中・高校生にも読み聞かせを、

と思っていたので、幾つか学校を回ってみたら生徒が意外としんみり聞いている姿を見て、今、いじめとか不登校とかありますがいろいろな意味で、ああ読み聞かせて良いものだなと思いました。

読み聞かせ団体も本当に千差万別ですね。もちろん図書館が関わっているところから、学校やコミュニティスクール等、読み聞かせ団体の活躍の場はいろいろで、ものすごく求められています。特にコミュニティスクールとか学校現場が、今、市民参画型にどんどん変わってきていますので要望が強くなっています。

そういった意味では、先週土曜日も福岡県のプレイリーダー1級の研修をしてきましたがこれは体験学習のボランティアの為に2級の資格を持つ方が更にレベルアップする為の研修です。そこで子供の体験学習について研修をしましたが驚きました。その時に来ていた方ですが、息子が2年生の時にネットゲームにはまり、夜の2時3時までやるから不眠症になり、寝られなくなったお父さんは、とうとう包丁を持ちだし「お前、死ぬかー、わしも死ぬー」となったそうです。

皆さんもご存知の通り親殺しの事件、原因の一つとして家庭裁判所の記録によるとゲーム漬けの子供が多いそうです。韓国では毎年ゲームが原因で亡くなっているのですね。何が申し上げたいかと言えば、子供にとっても、確かにゲーム、ケータイ、スマートフォン色々便利で良い面もあります。論文やレポートで調べ物する時は、まずインターネットで調べてくださいと私も言います。でもそれにあまりにも時間を掛けすぎると肝心の文化活動とか親子交流とか読み聞かせ等の時間を奪ってしまうのです。日本の子供がメディアに接触する時間4時間は世界一です。韓国も凄いです、韓国は縦関係が強いから日本より親の言うことを良く聞くのです。

私、県の家庭教育調査委員長も10何年やり毎年調べていますが、3～5歳で9時前に寝る子供はどれくらいだと思いますか？みなさんにお伺いしてみましょう。

2割だと思う人？5割だと思う人？7割だと思う人？・・・世界の常識は8割～9割です。9時以降に幼児が起きている国は殆どありません。実に日本は27%です。一昨年5回目になります。やはり5千人ぐらいの親が何時に寝るかということに9時前に寝る子は3割以下と答えています。全国も大体、幼児の寝る時間はそれぐらいです。早寝早起き朝ごはん運動ですね。ここだけの話ですがNHKはずるいですよ。睡眠に関する番組をやると、最後の場面では何かというと親が居酒屋やファミレスに連れて行くからそれが遅い原因だと、これ見よがしに最後の映像では見せるのです。しかし、実際に調べてみると子供達が遅いのは、何をしているかと言えば、テレビ、ビデオ、ゲームなのです。読み聞かせ等も勿論多少はしているのですが、言いたいことは、私が所属しているボランティア団体、それは子どもとメディアのより良い関係づくりの為に映像を作っている「NPO 法人子供とメディア」という日本で有数の子供とメディアに関するものです。2月の28日にアクロスで「ネット対策会議」が催されましたが、これは韓国が今一番進んでいるので来てもらいました。2年間でオンラインゲームから抜け出す為に、国が何十億と出し、メディアから離れるのに先ず1年の期間を要しました。後の1年間は何かということ、文化とか趣味とかスポーツ、ボランティア等に1年かけて自分で好きな活動を創るのです。そうしないと結局ゲームから離れてもまた直ぐ元に戻ってしまうからです。そういうことをしているそう

です。

古賀さんも本日お見えですが、実は宗像市では古賀さんに「宗像市文化芸術推進委員会」の委員をお願いしています。古賀さんと私が全小学校4年生千何百人の子供達全員に、一回本物の文化に接してもらおうと行政をお願いして、ベルギーの一流アーティストに来てもらいました。経費も結構かかりますが2年目も又やりました。何が良かったかと言えば、小学生の皆さん会場から出てきた時の表情、美味しいラーメンを食べてきた後の嬉しそうな、ああいう表情ですね。子供達千何百人が最後の演奏でビリーヴという曲を歌い、去年より良かったですね。事前の学習も良かったのでしょうし、やはり連携が出来ていたからだと思います。これはなかなか難しいと事だと思います。子供達に本物で良いものを見せてあげようと云う本気を感じて貰えれば行政も動いてくれるのです。

先ほど文化ボランティアの資金の問題が出ていましたが、結構歴史文化関係ではガイドボランティアとしてお客様をご案内することにより、なにがしかの報酬を戴く有償ボランティアのシステムが出来ているところもあるようです。自分が住む町の良さを感じて自分自身に誇りを持つこと、子供たちが関わると自分を認める気持ちが高まることもわかっています。

ボランティア全般のことになりますが、こちらの施設（当日の会場クローバープラザ）にはボランティアセンターがありますよね。どういう分野のボランティアがあり何が中心でしょうか。皆さんは概ね文化ボランティアですね。先程の報告ではその中でも3つの分野になっていましたが、もっと幅広い場合もあると思います。大体ボランティアと云えばどういう感じだと思いますか？地域でのゴミ拾いなど清掃も多いですね。でも伝統的にはやはり福祉です。でも人数では今も本当は清掃が多いのです。福祉分野の人は、やはりボランティアとは「我々だ」といいます。早稲田大学は学生ボランティアが一番進んでいますが、福祉系の大学の人は自分達だと思っている事と同じです。

ボランティアセンターは市町村いたるところにあります。大体大きく分けて二つですね。一つは全体の市民活動とか文化も含めたボランティアセンターと、もう一つは社会福祉協議会いわゆる社協です。伝統もありますが良し悪し両方あります。社協がもっているとどうしても福祉が中心になるので文化関係とか先ほどのまちづくりや美化等少し弱くなるという課題が出ている市町村も結構あります。伝統的にはそのような感じですが今はどんどん変わってきています。そこに対応できず片寄った運営をしているボランティアセンターは旨くっていないようです。

資金の問題を世界的にみると、これもいろいろなのですが、私もボランティアとして実際60カ国ぐらい危ない地域にも多く行きました。スリランカでは検問の列が200メートル余りにもなり、そこに軽飛行機で爆弾を落としている、そのような処にも行きました。学校のトイレ作りやダム作りとか危ない目に会いながらでした。ここは1割がタミール族というヒンドゥー教徒で、7割強がシンハラ族で仏教徒、これらの民族運動でゲリラが横行していました。このような処にも行きましたが、やっぱり一つは子供達の生活ですよ。学校に行ったりいろいろな文化活動、本が読めたりそこが安定していると子供たちは明るいです。子供や大人の表情を見て言うのはどちらかと言えばやはり子供の表情ですね。皆様方もいろいろと支援活動される時、相手の表情はなかなか見抜けないことがあると思

ます。先ほど美味しいラーメン店から出て来た時の表情と言いましたけど、ああいう表情を見抜く、又いじめの問題でも、子供をじっくり見て、しっかり見抜くという力をつけなければ・・・と申し上げたい。そういうところはなかなかボランティアにとって難しいのですが、それでも自然な支え合いは大切ですね。

子供が世界一元気なところは何処かご存知ですか？実は以前 碓 浩一という私共の大学にある保健管理センターの所長は、40年間余り毎年日本の子供をキャンプで連れ回っていました。その中で見つけたのが、面積が日本の5倍位ある中国西部のウイグル自治区というところですよ。そこは歌と踊りの民族で、誠に元気なところでした。所得は日本の20分の1位ですが、お金が無くても歌と踊りを身近にやりながら、その中で楽しんでいるので100歳以上の人の割合が、ある地区では沖縄の20倍になっていました。もちろん厳しいところそれどころではないところもありますが、長生きのところには支え合いがあります。

発展途上国の子供には勢いがあります。世界で一番元気が無いのが日本の子供達です。先進国は文化とか時間にも日本より余裕があるのですね。ボランティアは資金でみると、ヨーロッパでは資金をある程度行政が出しているのではないかと思います。調べてみるとお金の割合が結構多いようです。アメリカはチャリティーですかね。アメリカも何回か行きましたが、「言ったもの勝ち」というところもあり驚きました。後びっくりしたのは文化とは離れるようですが、買え買えという感じですね。消費文化というか、こちらがいいからこれどんどん買いましょ、はっきり云ってあまり貯金しなくてもいいやという感じが5年前と8年前滞在していた時には感じました。あれ買いましょこれ買いましょ、とにかく競争、あっちよりこっちが良いから、という感じが目に写りました。

日本もそういう風潮がどんどん出てきて、大事な文化そういった類のものが少し失われつつあるのかなという感じがしました。もちろんアメリカの良いところも沢山あります。例えば公園を造ろうと言ったら自分達が資金の半分を出し、あと半分は行政が出して立派な公園ができるのです。図書館の施設なども然りです。その他良いものもいっぱいありますが、やはり消費文化ですね。

だからメディアからの問題でいうと高齢者がテレビ見ていると安心なのかなと思います。でも本当にテレビを見る生活が良いのでしょうか。私も教え子が老人ホームに勤めていますし、実習もあるのでそこに行き厳しい状況の中で考えますが、本当は文化的なものに接する機会が在った方がいいのかなと思います。

ご存知のように去年 WHO（世界保健機関）が携帯電話をし続けていると、脳腫瘍が4倍になると発表しました。実はもう5年前から言われていたのです。ゲームも先ほど言いましたように、ネット漬け、ソーシャルゲームによってなかなか眠れない、今いろいろな病院で話題になっています。でもそのことはメディアではそんなに悪いとは流れてきません。メディアとは実はメディウムという言葉なので本も勿論文字活字もメディアに入ります。電子映像メディアの問題は特に携帯のスマートフォンになると危険100倍です。クロバンプラザで5年位前、女子中学生が出会い系サイトに巻き込まれ、灯油かぶって死んだとかそういう話を女性の警察官がしていましたが、やっぱり情報化時代のなかで本当に今人間として経験すべき文化がそのような形で失われているのかなと思います。

それから少子高齢化というと皆さんはどのようにお考えになりますか。ここにおいで
皆さんはゆとり世代と言われていませんか？言われませんか。大体ゆとり世代と言われる
のは24歳位からですかね。アルバイトに行くとかゆとり世代だからこんな事も覚えられな
いのかとか、親がゆとり世代だから駄目なのか等、アンケートを取りましたら大体9割以
上悪口を言われるそうです。これは誰のせいでもなく文科省が勉強時間を減らしたことが
一番大きな課題なのです。

東北に話を戻しますと、東北に行くとか二つ疑われるのです。一つは何かというと金儲
に来ているのではないかと。実際に今も建築関係では6つのゼネコンが600億から18
00億の工事を落札しており、全国では建築関係で1兆円規模を占めているが、地元は工
事が受けられない状況だそうです。ゼネコンでは大成建設グループだけが取れなかったら
しいです。

そういうこともあって、例えば先程の聞き取り調査ですが、学生20人ぐらいで300
万位の予算です。それは県と一緒にやっているのですが、内閣府が「新しい公共」という
ことで出してくれるのです。そういう震災関係にはかなり予算がつきます。地震関係の学
者は予算取り放題と言っていました。しかし今度は学生も私も一切謝金はありませんし、
私共の手出しの方が多いい位です。だから大学祭では3日間バザーを展開するのですが、ほ
んとにまだ東北の被災地は立ち直りができていません。

工場を作るにも流されたら貸したお金が回収できないから、銀行はお金を貸しません。
だけど気仙沼信用金庫の理事長は、NHKでごらんになった方もいらっしゃると思いますが、
今まで取引していた都市銀行が一回断ったところに、「気仙沼のために頑張ろう」というこ
とで融資しました。それに感動して老人ホームに行ってインタビューしていたら、老人ホ
ームの理事長が気仙沼の前市長で、信用金庫の理事長は当時の副市長だったらしいです。
すぐ携帯で信用金庫の理事長に電話をかけ「私の学生も信用金庫からの資金で頑張ってい
ます。テレビをみて感動しました」と言ったらその信用金庫の理事長が携帯の向こうで泣
いているのです。やっぱり回収できるかわからないということは大変だったのでしょね。
NHKで取り上げられたその水産加工場はフカヒレ スープの会社ですが今も何とかや
っているようです。まだまだ復興には時間がかかると思います。

生活面にいきますが、尼崎市というところで20年前の丁度重厚長大の時代が崩れた頃
3000サークル余りを調査しました。そこで聞き取りをしましたが、「文化活動をやって
いるから自殺を2回思い留まった」という人がいたのです。文化サークルの300人余り
にインタビューしましたが、いろいろな文化活動をしていると生活とか健康に効果がある
ということです。とにかく少子化ですからいろいろなことがあります。ただ先ほどの、若
者にもいろいろあるのですが、是非良い形で育っていかればと思います。「近頃の若
いは」という言葉は江戸時代それ以前から言われていました。大学でも20何年も福大
とか九産大、リハビリテーション学院とか農業大学校とかいたるところで言われていま
したが、でも見たことがない事、体験したことがない事は基本的には出来ないのです。若
者や子供のせいにするというよりも、文化体験や環境づくりをして来なかったこと、読み聞
かせにしても本当に本を読む素晴らしさや本の良さを教えて来なかったことに問題がある
のではないのでしょうか。図書館の視察に行った議員さんの中に、図書館に入館するのにお

金を払おうとする人がいて驚きました。本当ですよ。びっくりしますけどね。

三年前に尾木ママ（尾木直樹氏）と2週間ぐらい北欧を回ったら、スウェーデンやデンマークは本当に身近な処に図書館があります。一般には700mぐらいが利用率の変わる距離だと言われています。やっぱり身近に歩いて行けることは大切です。

ついでに言わせて貰えば、実はフィンランドの学生の学力が高いのは、少人数だとかいろいろ言われていますが、読書だと思います。一つは機会があるのと、暗くなるのが早いことです。実は日本も学力、生涯学習が盛んなのはずっと秋田が一番なのです。勉強ができる秋田の小・中学生、やはり早く夜が来るといことでしょうか。それに文字、これは国語だけではないのですね。全国学力調査にでていますが、勿論生涯的な生き甲斐に読書は繋がるとい、これは統計的にも大体出ています。

先ほど言いましたように読み聞かせを努力しても、なかなか読書時間は増えません。本当に全国早寝早起き朝ごはんを取るということもそうですが、読書活動も全面展開してずっとやってきましたが思ったほど増えないのです。一番の原因は、はっきり言って電子映像メディアです。メディアがゲーム機のCMで皆さん楽しいですよ、お願いしますと煽るから、子供達はゲームが一番楽しいと答えるのです。確かに凄いです。逃れられないように作っていますから。丁度全国の家庭教育調査をして分析していますが本当の喜び、例えば芸術の素晴らしさとか読み聞かせの素晴らしさを知っていると、読書にむかう場合が多いのですね。逆に言えばゲームをしても、文字活字に親しんでいるとか文化活動をしているとかいろいろな体験学習をしている子どもは良いのです。ぜひ皆さんのお力で本当の喜びというものを伝えて頂ければと思います

「新しい公共」という言葉が今使われていますね。これは今までは公的なことは行政が全てやりましょうといていた事を、個人や団体、まさに皆さん達に肩代わりして貰うということです。ご存知の通り行政の方はスリム化で、要するにお金が無ないから市民にやってもらわざるを得ないところがある訳です。だからボランティアに頼らないと廻らなくなっているのです。

しかしこれを表に出している市町村は失敗しています。行政は皆さんをお金が無ないから、市民活動条例を定めたりして、ボランティアを使わねばならないから使っているのです。今、全国にいろいろできているボランティアに関する市民条例ですね。そういうところのいくつかは反発を食らって、何だ、お金がないから我々ボランティアが無理やり呼ばれているのか、と思われるところは旨くいいけません。“自分達で”というところをうまく出しているところは旨く行っています。

例えばゲームでいうと、難しいのは、もちろん企業はゲームを作りましょう、売りましょうと、ご存知の通り福岡県・福岡市はゲームのメッカと言われているのです。実は行政もゲーム立国とかいって、メディア産業の振興をやっています。ですから産業振興と言えるかもしれませんが、国がゲームを売っている訳です。国が機械やソフトを売るためのメディア戦略ですが、問題があまりにも出すぎているので韓国は今度そういう問題解決をするために予算を設けて抑えているのですね。だからそうなる前にいろいろな意味で本当の文化とは何か、子供や大人がどういう風なところに接すれば良いかという事を考えるべきだと思います。

地域住民が決定権や責任をもって地域を運営していくという地域主権（地域社会・ボランティアの強化等）、これもどんどん進んでいます。この前も県のボランティアセンターの今村さんに宗像市に来てもらい、ボランティアの講習をして頂きましたが、研修などはあまり小さいグループでは難しい面があります。皆さんのところでは研修する時に多分皆さんも一緒にされていると思いますが、最初の企画の段階から皆さん方が入れれば確な内容方法になりますね。今日も午後にワールドカフェがありますけど、これも面白く楽しめるやり方で、私もいろいろ経験しました。実際に津屋崎ランチの山口さんという方に、以前、春日西中学校で同じワールドカフェをしていただきました。楽しい方法です。ただ地域主権という場合にどういう形で展開していくかという事ですね、あまりにもグループが小さ過ぎると難しい時もあります。ある地域ではコミュニティにお金をどんどん投げ渡してみたいに出し、「自由に使ってください」という市町村も出てきています。自由になると当然ですが、みなさんも運営される時はそうだと思いますが、企画の段階から加わっているとやる気が出やすいですね。既に決まった事に参加してくださいと言われてもなかなかやる気が出ません。だからできるだけ初めの段階から参加するというのが基本ですね。

後継者の育成に関してもそうですね。できるだけご自分は出来ても出来ないふりをして企画の段階から入り、時間がかかっても、次の人に任せていくという事が大事です。これも先ほど古賀さんと話していたのですが、あまりにも投げ渡しだとうまくいかないところもあり、やはり地域に任せるとなると高齢者の方が中心になってしまい、文化に熱心な方、福祉関係に熱心な方、健康とか医療等熱心な方其々なので、予算の執行が片寄ったものになり、肝心の文化関係に廻らない場合もあるのです。だからそこをしっかりと見ていく必要があるのかなという感じがします。

ボランティアの基本はご存知だと思いますが、元の言葉は Volo(ヴォロ)とか言われています。ボランティアとは人の為とか社会の為にという意義もあると思います。皆さんのおかげで福岡県の文化ボランティアがこうして議論や情報交換が出来ることは大変ありがたいことです。しかしこれがどこまで出来るかというのはなかなか難しいことです。このフォーラムも4年目を迎え本当に素晴らしい活動で企画運営など大変だったと思いますが、大変な程、充実感は大きいと思います。

先日のプレリーダーの研修に久留米の「風の羽ばたき隊」というグループの人達が何人か来ました。年に3回のイベントで、今回はクリスマス会の準備とサンタクローズになる18才～35才までの久留米の青年達を50人余り募集するという企画です。これは最初の企画の段階から参加して自分たちでやっていく企画型イベントで楽しみながらやれる一つの方法だと思います。ボランティアに青年層は集まりにくいですが、こういったイベント方は比較的集まりやすいようです。

学校での子供たちの支援活動にしめ縄作りや竹細工があり、子供たちを指導する場面が研修の中に入っていましたけどこういうのも良いですね。私も大学の授業で以前学んだサービスマーケティング（地域貢献）を教えています。専門は社会教育といって大学の中で計画を立て学校以外の公民館や子供会で実際やってみて、実践をもとに反省し、次のために修正することの繰り返しですがこれは力が付きます。

東日本では今でも地域によって百年経っても復旧が難しいと思われる処もあります。一

番多く亡くなったのが石巻、次が陸前高田、三番目が気仙沼で人口的には気仙沼が石巻と同じぐらいの割合で亡くなっています。

私が行った日本で鮭の養殖が2番目の小泉地区では、1200軒あった家が900軒流されてしまいました。ただし、3日前に避難訓練をしていたので亡くなった方は4%だったそうです。そこは平地なので何ヘクタールも、津波で流されたままのずうっと地平線です。

学校は気仙沼市全ての小・中学校に仮設校舎が併設されています。仮設住宅は基本的には無くなりません。何故かという次の家が建てられないからです。だから次は方向性として公立の安いアパートなどが出来るのではないかと思います。東北の方とはとにかく来て見てくださいとおっしゃっています。

気仙沼市では行政が津波は6mと放送していましたが、(写真を掲げながら)実際は26mもありました。松の木の26mのところにブイが残っていたことが証明しています。

私達が聞き取りに行き勉強も支援した中学生の学校は、40mの高台にありました。大島という処で湾の入口に来ていた波が相当高いと云うことで校長と地域の保護者生徒が判断して学校から敢えて帰らなかったから全員助かったそうです。実際、現在でも勉強も遅れていますし、野球場もないから廊下でキャッチボールをしていました。今年、福岡に来てもらった福島の子供達は福島もやっと少しだけプールに入れるようになりましたがストレスが溜まり喧嘩も起きるそうです。

放射能の実態は、去年9月は15人中14人に鼻血が出ていましたが今年は2人だけでした。多少は影響があるのだらうと感じました。実は福島や東京からも福岡に子供が避難して来ています。来週、私どもの体験支援で福岡市の海の中道で合宿を組みその子達にいろいろな文化を体験してもらおう為に、素晴らしい技術をもった大学院の美術科の学生が行きます。

宗像市のボランティアは気仙沼でベートーベンの第九を唱いました。現地には待っている人も多いのですが、日常生活で目一杯なのかなと感じる時もあります。学生も20名ほど行きましたが、困ったことは12月になると泊まる部屋がマイナス3度と寒さが厳しかったことです。現地の方からお世話頂く事は難しいので、食べることは自分達でやらなければなりません。しかし彼らは厳しかっただけに嬉しさも感じてくれ、「またお願いします」と手紙を頂いた者もいます。

我々がこのように子供達への支援体験をするより本当は地元福島の皆さんがいろいろな支援活動をされた方が良く私は言い続けています。支援する場合、結局は本人達が自立していないと行う事が出来ないからです。

子供が自分達でボランティア活動が出来るようになるということは大事なことで、今いろいろなところでそのような形になりつつあると思いますが、「全てお任せ」では危ないので見るところはきちんと大人が見ておき、段階的に参画してもらうことが基本です。この参画というところが大事な視点だと思います。

先ほど出ていたボランティアは無償という考え方についても徐々に変わってきているようです。例えば以前は公民館の基本的な在り方として非営利性、非宗教性、非政党制、要するに公民館は政治、宗教、金儲け等に関わってはならないということです。本当は1つ

に拘わらなければ（特定のところに偏らなければ）良いという解釈です。公民館で料理教室をする場合、材料費も貰ってはいけないという時もありました。今は受益者負担ということで貰う方が多いと思います。

ボランティアも同じで、ボランティアの三原則は無償性、公共性、自主性と言われていきます。今大学でもボランティア活動を取得単位としているところが多く、学校でも講義なのかボランティア活動なのか区別がつかない授業も結構あります。何故かと言えばボランティア活動をするとすごく実力が付くからです。

アンビシャス運動(豊かな心、幅広い視野、其々の志を持つ逞しい青少年の育成を目指す県民運動)でも成果を出していますが、特にボランティアをして良い影響が出るのが自尊感情、これは大人も子供も持っているもので意識とか行動に最も影響を与える要因の一つです。自分を尊敬する感情と書きますが、実質は自分のことが好きですか、自分には良いところがありますか、自分は生きていて良いですか、自分は社会と繋がっていますか、と云う様な自己肯定観なのです。自分を認める、自分を誇りに思う、自分を在るが儘で良いと思う感情でもあります。これを高めるには、褒められる、これでうまくいったなとか、基本的には成功体験なのです。さらに高まるのが利他体験で、自分の為だけにやるよりも、人の為とか家族の為、或いは社会の為、こちらの方が自尊感情はよりあがります。是非皆さんも子供に関わる機会にはこのようなボランティア体験をさせてください。

無償の捉え方で先ほどの話にも出ていましたが弁当や旅費、これは良いのではないかという流れにあると思いますが、有償ボランティア、有償という言葉自体を否定する方もいます。流れとしては1円でも貰っては駄目だという考えは変わりつつあり、逆に専門ボランティアでいうと、必要なところにはある程度お金を支払った方が良い結果が得られるという考え方もあります。そうしないと本物の文化体験はなかなか難しいかも知れません。

先ほどの資金面から言うと、最初はボランティアやNPO団体が活動を始め、やはり大事な事だから行政がやるという場合も出てくるので、あまり資金面に拘りすぎないほうが良い場合もあります。

ただ、東北でも今までは瓦礫処理に来てもらえば良いというところが、最近は海外や東日本でも若干専門的な力がボランティアにも求められてきました。専門のボランティアを養成するための講座を福岡教育大学、福岡大学、日本赤十字九州国際看護大学などが持っており、例えば福岡教育大学ではボランティア実践入門、日本赤十字九州国際看護大学ではボランティア論などがあります。

東北のボランティアに行く費用は福大では全額を大学が出し、福教大では後援会の保護者が一人につき10万円ぐらい出しています。何故ならばマスコミに取り上げられたりして大学の宣伝になり、学生個人には面接で有利に働き就職対策にもなるからです。もちろん全額自分で出した人もいますいろいろですが、先ほど出た自尊感情にも関わる問題だと思います。また活動は生涯学習とも言えると思います。

皆さんも本日午後行われるワールドカフェで多くの方と是非電話番号やメールなど交換し合い、他の団体と繋がりを持ち、困ったときは連絡出来るようにすれば良いと思います。とびうめの会を介してと云うものもありますが、直接、face to faceは大事なことです。九工大の先生で情報の専門の方もやはり直接会わないと駄目だと言っています。

そういう意味でボランティア団体も実際に直接指導できる力量を持った人を育てて行くことが大事だと思います。例えば研修で言うと、近い処でするのではなく遠くて面白い処に行った方が多少経費は掛かるかも知れませんが、良い結果を得られる確率は高いと思います。我々市民活動ボランティアも大阪で活発に活動している箕面市まで出かけ大変参考になった経験があります。

学生ボランティアの中には自主性と自由を取り違えて、遅刻したり、約束を守らない人がいます。皆さん指導をお願いします。ボランティアは確かに自由ですが責任はあります。ボランティア活動をしている最中に、「うちの団体は普段からこういうところが悪い」と言う人がいますがこれは止めてください。グループでしている以上皆さんはキャストですから。

ディズニーランド成功の理由は、社長であろうと、平社員、非常勤、ボランティア、皆が夢と愛と文化を売るキャストだからです。東日本大震災の時、アリエル（ディズニーのキャラクター）は宙ぶらりんの中でもにこやかに笑いながらやり続けていました。キャストは自由裁量で洋服やお菓子やら食べ物を皆さんに配っていました。1割ぐらい自由裁量権があったのですね。そこに居合わせた女子高生も一緒に子供達にお菓子を配っていました。そのように一歩踏み出す気持ちが大切ですね。

もう一つ我々が東北の被災地の現地に行くと研究材料収集の為に来ているのではないかとされます。本当に稀有な機会ですから自分の研究材料を得る為にいろいろな人が来ています。実際裏でお金儲けしている人もいます。東日本の方の中にも生活保護費を貰うのも働いて得るのも同じだから生活保護費を受けるという例もあります。現地では人が居ないから自警団は巡回していますが泥棒や詐欺事件等も結構多いようです。

この前、日本教育学会に行きましたら、ある大学の先生が「大学と学生を、NPO やボランティア団体と一緒にするな！」と言っていました。また「聞き取りもするな！」、相手は本当に聞き取りだけで満足するのか、という事です。確かに無理言って聞き取りすることは良くありませんが、先程申し上げたおばあちゃんは 2 月には「駄目よ」と言われましたが、9 月に行った時は孫と一緒に直に話してくれました。これは地元が「記録を残したい」という意向が生じたからです。

皆さんがボランティア活動する場合も、基本は相手の立場を充分わきまえて当たるべきだと思います。ボランティアは楽しまなければ、とよく耳にしますが、あくまでも支援促進指導ですからそこをわきまえず楽しもうとしている方には、皆さん方からの指導、支援が必要だと思います。

それからお願いしたいことは他の年代の人を理解する「異世代理解」、人と人の縦の繋がりが徐々に分断されています。学校でもそうですし、いろいろな処でその現象が見られます。お子さん、お孫さんをお持ちの方、その子や孫たちが働くようになる迄の権限は大人にあります。小・中学校に行くと「小遣いの範囲なら何に使っても良いのでしょう」「何でもして良いのでしょう」と言いますが責任は親にあります。だから携帯の問題でも何でも「駄目なものは駄目」と言ってください、と私は言います。自由平等の履き違え、これが日本の課題でもあります。

ボランティアに於いても平等は大事ですが、年齢や長く頑張っている方には強制ではな

いけれど、尊敬とか感謝が必要なところもあります。先日ある福祉施設で、「親しくなるため口の方が良いよね」と話していましたが、やはり何歳も離れた人と同じでは、という気がすると同時に、この辺は少し改めた方が良いと思います。

家族臨床心理学専門の亀口憲治先生とウイグルで調査した時の結果です。この四角の紙に家族のシールを貼ってくださいという問です。世界で一番元気が無い日本の子供は、お母さん、お父さん、私、妹、そして鳥のオウムをばらばらに表現しました。世界で一番元気なウイグル自治区の子供は、おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、僕、妹の順と縦に固まって示しました。どう言う事かと言えば、距離は家族の親密度、交流度、尊敬度です。日本の家族は離れています。ウイグル自治区の子供は 96%家族を縦に示しこのように答えました。話し合い、助け合って非常に近い関係にあると思います。もう一つ大事なことは順番で、何気ないようですが、これは内的な権威関係、尊敬されているかどうかなのです。だから 122 歳のおじいちゃんが一言、「日本から変な奴が来たから集まれ！」と言ったらすぐ 100 人位の人が集まるのです。それだけ存在感、役割があるから高齢者が長生き、というところもあると思います。

では戦前の日本と同じではないか、と思う方が居るかも知れませんが違うのです。何が違うかと言えば冗談関係と言って冗談を言える関係、玄孫が 122 歳のおじいちゃんに「昨日若い女の子に声をかけていただろう」と冗談を言います。122 歳なので若い娘って 90 歳ぐらいかと思っていたら 40 歳ぐらいでしたが、そういう冗談が言い合える笑いがある集団です。皆さんの団体は如何ですか。冗談やユーモアが、笑いがありますか。

近頃は地域社会（行政）もスリム化で大変です。地域の施設等もいかに少ない予算で運営していくか問われています。何に於いても予算削減することの限界に来ているのではないのでしょうか。公的なものはお金の有る無しに拘りなく、大事な内容であれば行政がきちんと支援すべきだと思います。聞くところによれば芸術文化で利益を得ることは人口の多い処でも、いい企画を提供してもかなり難しいとの事です。私達もバザー等でいつも遣り繰りしています。

自主財源をどうするかということですが、財団などの支援を受ける方法もありますが、これは 1 年だけとか 2 年間とか期限があり難しいです。先程の「子供とメディア」事業も福岡市より 250 万円 2 年間出た例などありますが、自立していくにはどうしたら良いか考えていく必要があると思います。

ボランティア保険は市町村の財政にもよりますが、行政が「掛けましょう」というところが増えています。例えば放課後の学童保育も財政が健全なところは 6 時まで誰でも受け入れますが時間を限定する処もあり、市町村により随分違い、行政がどこを重視するかという事になります。図書館の無い市町村がありますが、子供にとっては不幸なことです。建てる時は大変ですが子供の先々のことを考え早く作って欲しいものです。そこで繋ぎとして今高まっているのがコミュニティスクールです。これにできるだけ来てください。注意点は学習指導要項が変わり勉強時間が 3 割増えました。福岡県は全国に先駆けて土曜日授業を早くから取り入れました。総合学習時間の中で体験学習をしながら自分で問題を発見しそれを解く、この時間が週 3 時間から 2 時間に減りました。土曜日に授業が始まることにより家に籠っていた子供たちが外に出る良い機会になるかも知れません。全般的に学

校は文化活動をしていた今までより勉強重視に変わってきています。

コミュニティスクール（学校運営委員会制度）これは学識経験者・地域の人・保護者などで構成され、学校の運営に地域の皆さんの声を活かす仕組みで、人事・予算・内容にまで拘ります。外国ではメンバーに子供が入るところもありますが、日本も少しずつコミュニティスクールは増えています。春日市・福津市等は、今、全てそういう学校になってきています。要はボランティアや地域の人、保護者が入り学校と一緒に運営して行こうということなのです。

コミュニティスクールになる前は夕方5時頃になると、お宅の生徒が危険な自転車の乗り方をしていました、と言う様な文句の電話が鳴り通しだったのが地域の方が入ってきて全く無くなり、小・中学校の運動会でも文句の電話がひっきりなしでしたが、これも無くなりました。地域の方が加わると随分変わってきます。

もう一つ、なぜ「地域」が今求められているかと言うと、そろそろ個人主義、孤立主義は限界に来ているようです。実は1988年7月に文部科学省の社会教育局が生涯学習局と改名され筆頭局となりました。文部科学省は生涯学習局が出来たのでボランティアを生涯学習に含むと云う規定にしました。

そこでボランティアはかなり充実してきましたし、個人的に趣味をどんどん進めて行こうという事になりました。その典型がカルチャーセンターで、ここに皆参加していけば活性化し、町も社会も良くなるだろう、と80年～90年代は思っていました。ところがカルチャーセンターも個人の趣味活動だけでは地域の活性化までは難しいところが如実に出てきて、カルチャーセンターだけではやはり限界がある事にやっと気付きました。

そこで改めて「新しい公共」とかボランティアの大事さ、地域との繋がり的重要性が浮上してきました。お互いが直接会って表情、雰囲気を感じながら情報交換する、研修で交流を深める事の大切さを意識するようになったのです。

我々が東北に行き、最も力を入れている事は傾聴です。「傾聴」これは大変大事なことで、五感をフルに働かせ第六感をも活用し、身体全体で人の話を聴くということです。「いのちの電話」でも一番にこの研修をしますし、子供が自由に電話できる「チャイルドライン」でも基本は傾聴です。今はコミュニケーションが大切と言いますが、基本は表現ではなくまずしっかり聞くことです。

ただ大事なことは、メディアが言う「何でも正しいもの」として理解する傾向が問題です。例えば私が話す時、私の立場はメディアの文化に対する問題性を告発し、文化活動自体の楽しさ、文化体験学習の楽しさを感じるには、文化活動によってもたらされることを知るのが大事である、そのことを訴えたい、私の価値観、強調したいことで構成されています。

テレビで流れるニュースでも、結構いい加減なものがあります。例えば湾岸戦争の時オイルに塗れた鳥の映像が出ましたが、どこかの鳥を持ってきたとか、ボスニアヘルツェゴヴィナ戦争で11歳の女の子が苦しんでいる、実はアメリカに住んでいるボスニアヘルツェゴヴィナの少女だったそうです。これ位メディアでは情報発信に於いて、虚構でなくても、何でも「構成すること」が基本です。私がNHKやKBCの方と一緒に仕事をした時も先ず構成を考えて制作に掛る感覚でした。我々はニュースや伝わるものは全て真実だと思い、

つい受け取ってしまいますが、作り手側はやはり構成する感覚だということを考えておくことが大事です。

皆さんもボランティア活動される時、子供の場合でも相手の話を先ず傾聴することが大事です。連携・組織化する時の基本は挨拶も大事です。先ず相手の名前を確実に覚えることです。山に行つて挨拶を返さない人に会うと恐いでしょう。日本では礼儀、躰とか言いますが、挨拶はコミュニケーションの一つの手段で、相手・自分を認めるという事です。相手がここに来て良いのだよと云う挨拶だからやはり名前を覚えておくことが基本になってきます。

もう一つは先ほども言いましたハードファン (hard fun) についてですが、子供達の支援活動をする時、我々が手伝ってあげれば、子供は楽し喜ぶからと云って簡単に何かして上げるのも良いのですが、そうではなくハード (苦しい厳しい悲しい) だからファン (喜び楽しい) を考えて上げた方が子供の印象に残るし成長に繋がるという事です。厳しいことこそ本当の喜びとして残る、これを基本にしていかないと先ほど出ていた世代交代も進みにくいのではないのでしょうか。

私たちも現地の人と信頼関係を作るのに半年かかりました。信頼関係を作るのはボランティア自身の感性ですね。守秘義務とか感謝の感覚、これはボランティア自身の感性です。感動する気持ちを持っていないと VMP (夢、目的、情熱) があってもそのやる気を感じる為にはセンスオブワンダー (不思議さに驚嘆する感性) が必要です。

自分自身でこういうボランティアをやっていて良かったと云うところに気付くこと、分からない時は一緒にやってみて、こういうところが良かったね、と共感共有していくところも大事です。

すべて先に進んでいくには厳しく指導することも必要ですが、やはり失敗は成果につながるものとして改善が基本だということです。やり甲斐は常にもがき苦しみ、自分達の社会で創造するしかないのです。

先ほどアンケート調査結果の発表がありました。素晴らしいと思ったのはニーズ調査です。ニーズとは要望と必要性です。要望だけ聞いていても難しく、必要なものは何かということも大切です。その時に大事なことは潜在的と書いていますが、要望でも例えば「音楽を聴きたい」と言つて音楽サークルに入ります。次の年行つて見たら絵画のサークルに入っていた。実は表面的には音楽のサークルに入りたかつたと言つていますが本当は淋しくて友達を作りたかつたのかもしれない。だからそのような潜在的ニーズも一緒に探つていく、逆に言うと今回のように二つの立場から見せていくと非常に解り易いですね。

ちょうど予定の時間になりました。皆さんが常に考えもがいて一歩踏み出し県内それ以外にも文化の力、素晴らしさを活性化して頂き、先ではまちづくり社会づくりにまた福祉にも必ず繋がっていくと思いますので是非進めてください。

質疑応答

Q: 次を担う人を参画型で提案すべきだと話されましたが、いろいろな募集方法があると思います。若い人が一歩踏み出すには本人の気持ちもあると思います。その一歩踏み出すきっかけとか仕掛け等良い方法があればお願いします。

A: これと云うものはありませんが、例えば行政の広報誌で募集かけてもなかなか来ませんが、一つは広報で言えばネット環境で来る場合もあります。宗像市では大島に行きませんか、と公示したらかなり来ました。私もそういう企画をしましたがバスに乗れない位集まりました。好きな人はネットで来る場合もありますが、要は若者が集まる場に行って募集するという事です。また PTA の会合などお父さん方も結構参観に来られます。こういう人が集まる場所が何処かを普段からアンテナを張り巡らし連携を取りながら情報収集する方法もあります。

人が集まる場所、青年団、婦人会等はどんどん弱体化していますが、その中にも小さなグループですがダンスとかバスケットなど活発にやっているところもあります。規模は小さいがそのようなところに旨く働きかけていくやり方もあるでしょう。今、青年層で比較的力量があるのは青年会議所ではないかと思います。

大事なことは自分達の良いところ、魅力的なところ等をしつこく大きくアピールしていくと成果に繋がるのではないかと思います。それでも若い人の獲得は中々難しい様ですね。

県の社会教育施設には青年層のボランティアがよく来てくれます。もう一つは子供の為だったらと参加してくれるところもあります。先程のコミュニティスクールを通じて春日西小学校校区の活性化を地域の人たちが図ってくれている例もあります。それもやはり文化活動の方がかなり有効です。

Q: 「新しい公共」という手法がありますがその中には協働というのがありますね。特にボランティア研修ではいろいろな形が出てくるのですが、先程からの話の中に協働というのがありませんでしたが、何か理由があって説明を控えられたのでしょうか。

A: すみません。忘れていました。協働は今後すごく大事だと思います。福岡市や福津市は共に働く共働を使っています。ボランティアコーディネーターの加留部貴行氏は共に働いてまず汗をかきましょう、行政が上とかボランティアが下とかではなくパートナーとして一緒に地域作りをしましょう、と言っています。

ボランティア団体だけでも旨くいく事もあるでしょうが、長く続けて、受け手が満足感を得られるには協働の方が成果に繋がり易いでしょう。しかし行政自体が縦割りなのでなかなか難しいところもあります。施設側の方も本当はネットワークを駆使した方が活性化するのにとお思いの方も居ると思いますが、行政の内部自体も協働は必要だと思います。行政は勿論ボランティア団体、NPO とか、NPO 同士、また個人というようにいろいろな協働があるでしょう。協働は非常に大事なことですから皆さんもしっかり考えてみてください。

長時間にわたりご清聴ありがとうございました。